

1 単元名 「知床の自然を守る～意見文を書こう」（13時間）

2 単元のねらい（目標）

羅臼町の自然を守る取り組みや水産業の現状を知り、羅臼町の自然を守るために自分たちができることを考え、意見文にまとめることができる。

3 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>① 水産物の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などについて、地図帳や統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業の概要や水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。</p> <p>② 調べたことを文や表などにまとめ、水産業は自然条件を生かして営まれていることや、水産業に関わる人々は生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。</p> <p>③ 羅臼の自然について理解を深めている。</p>	<p>① 水産物の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などに着目して、問いを見だし、水産業の概要や水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。</p> <p>② 水産業に関わる人々の様々な工夫や努力を総合して、それらの人々の働きを考えたり、学習したことをもとにこれからの水産業の発展について考えたりして、適切に表現している。</p> <p>③ 羅臼の自然について理解を深め、自分の考えを持っている。</p>	<p>① 我が国の水産業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことをもとにこれからの水産業の発展について考えようとしている。</p> <p>③ 羅臼の自然について理解したことをまとめようとしている。</p>

4 指導と評価の計画

小単元名 (時数)	○学習活動 ・児童生徒の反応	知	思	態	※指導上の留意点 ☆外部連携
水産業のさか んな地域 (5時間)	○日本の水産業の課題や工夫 や努力を調べる。 ・日本全体で漁獲量が減って いるんだね。 ・農業と一緒に働き手も少な くなっているよ。 ・養殖は安定して収穫できる んだね。	① ②	① ②	① ②	※水産試験場の 方に 地域の海 に住んで いる 生き物の説明 をしていただく 。
くま学習 (3時間)	○知床の自然の現状について 知る。 ・くまが人里に現れる原因 は人間が悪いんだね。 ・不法投棄があるなんて知 らなかった。	③			☆ビジターセン ターや役場の方 に羅臼町の自然 やクマについて 説明していただ く。
さけ学習 2時間	○漁業組合の方に羅臼町の漁 業の現状について教えてもら う。 ・やはり、漁獲量が減ってき ているんだね。 ・養殖漁業も始めているんだ 。	③			☆漁業組合の方 に、羅臼の現状 について説明し ていただく。
意見文を書こ う。 (3時間)	○羅臼町の自然を守るために 自分たちの意見をまとめよう 。 ・白神山地のように人が入れ ない場所を増やさないとけ ない。なぜなら・・・		③	③	国語「白神山地 の提言」で書い た意見文を参考 に学習を進める 。

5 本時の目標

○ビジターセンターでは、知床の自然を守るためにどのような取り組みをしているのか話を聞き、理解を深める。

○クマ学習を通し、クマを守る取り組みやクマと共存するために必要なことについて理解を深める。
(6・7 / 13時間)

6 評価規準

羅臼町のクマや自然について理解を深めている。(知識・技能③)

7 本時の展開

配時	○学習活動 ・ 児童生徒の反応	※指導上の留意点 ☆外部連携
30分	<p>ビジターセンターの方々からお話を聞き、ビジターセンターがどのような活動をしているのか、クマが人里に現れる理由について知る。</p> <p>○クマの生態について知る。</p> <p>○クマの食べ物や性格について知る。</p> <p>・肉以外にもたくさんの物を食べているんだな。</p>	<p>☆ビジターセンターや役場の方に羅臼町の自然やクマについて説明していただく。</p>
50分	<p>○実際のクマの骨や毛皮、糞を見て理解を深める。</p> <p>・クマの食べているものは色々あるね。</p> <p>・クマが人間の生活圏に入ってくるのは、人のせいだったのか。</p> <p>○質問タイム</p> <p>・植林などはしていないんだね。</p> <p>・観光客への呼びかけなどもしているんだね。</p>	
10分	<p>学習を振り返ろう</p> <p>○学習を振り返り、新たな課題に気付</p> <p>・クマを守るためにも人が入れない場所をしっかりと作らなければいけないと思う。</p> <p>・羅臼の自然を守るためには、もっと、羅臼のことやクマのことを知ってもらわないといけないと思う。</p>	<p>※今回学んだことを基に、自分の意見を簡単にまとめる。</p>

8 他教科等との関連

- 国語「 白神山地からの提言 」
「 町じまんを紹介しよう 」
- 社会「 水産業のさかんな地域 」

春松小学校 第6学年知床学学習指導案

日 時 令和4年9月8日
 対 象 羅臼町立春松小学校6年生

(1) 目標：津波の性質と危険性を理解し、津波から身を守るための行動を考えることができる。

(2) 本時の展開

○主な学習活動 →予想される児童の反応 ・活動内容 □留意点

過程	主な学習活動	留意点
導入	<p>○「津波」という言葉を知っているか答える。 →知っている、知らない</p> <p>○津波について知っていることを挙げる。 →大きい波、東日本大震災</p> <p>○津波の恐ろしさや被害について想像する。 ・東日本大震災では最大10m以上の津波が町を襲ったことを確認する。 ・10mの高さの水の塊が迫ってくることを想像する。</p> <p>○東日本大震災の映像を見て、隣同士で感想を話し合う。 →こわい、すごい、流されたら死んじゃう</p> <p>○課題を把握する。 ・羅臼は海が近いので、津波が来る危険性がある。 ・津波から身を守るために、津波を知る必要がある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">津波を知り、どのようにして身を守るか考えよう。</div>	<p>□水の塊の例えを示すことで、より津波の恐ろしさや凄さを実感させたい。 (教室いっぱいの水が襲ってきたらどうなるだろう。)</p> <p>□想像したことと関連付けながら考えられるよう声掛けを行う。</p> <p>□「羅臼にも津波は来るだろうか」という問いかけをする。</p>
展開	<p>○実験を行い、津波の性質を知る。 ・波と津波の違いを理解する。</p> <p>①波は風力、津波は地震力でおこる。 ②波は水の表面が動き、津波は水全体が動く。 ③地震が起きたら、津波が来る可能性がある。 ・津波の種類を理解する。</p> <p>③引き波は一度引いてから津波がくる。 ④押し波は引かずに一気に押し寄せる。</p> <p>・津波が来た時に安全な場所と危険な場所を確認する。</p>	<p>□手を入れて波と津波の違いを実感させる。津波は何度も戻ってくることを確認する。</p> <p>□なぜ沖に見に行く人がいるのか考えさせ、津波が来る前に波が引くという誤解があることに気づかせる。</p> <p>□国後島の地形モデルを設置して実験を行う。地形モデルの縮尺の説明をし</p>

<p>終末</p>	<p>⑤危険な場所は低い場所、海・川の近く、安全な場所は高くて海から遠い場所</p> <p>○ワークシートで実験結果をまとめる。</p> <p>○羅臼に津波が来るか考える。 →来るかもしれない、わからない</p> <p>○津波はいつか必ず来るということを確認する。 ・今後 30 年間に大きな地震が来る可能性は高いと言われている。 ・生きているうちに来るかはわからないが、いつか必ず来る。</p> <p>○自分は津波から身を守ることができるか考える。 →自信はない、逃げられると思う、逃げ方が分からない、状況による</p> <p>○教師の説話を聞く。 ・釜石の子どもたちが自分で身を守った話から、自分自身で身を守ることの重要性に気づく。</p>	<p>ておく。</p> <p><input type="checkbox"/>地震動予測地図を提示し、生きているうちに来るかはわからないけれど、いつか必ず来るのだということを知らせる。</p> <p><input type="checkbox"/>逃げることはとても難しいことだということを伝え、普段から防災について保護者と話をするを促す。</p> <p><input type="checkbox"/>正しい行動をすれば命を守ることができることを伝え、希望を持たせる。</p>
-----------	--	---